

2026 年度

SGT 活動レポート

Global Communication Lafcadio Hearn の夏休み

7月30日(木)、夏期休業日2日目、第2回 Global Communication Lafcadio Hearn の夏休み-焼津小泉八雲記念館を訪問して八雲の軌跡を辿ろうーが実施されました。本講座は、5月2日(土)に実施された Lafcadio Hearn とセツ『ばけばけ』の Real Life-を受けて史料から辿る Hearn の夏休み、特に Hearn にとってお気に入りの場所となった焼津での夏休みの生活について焦点を当てた講座です。今回は教室を飛び出して焼津小泉八雲記念館を訪問しました。参加者は、中学生4名、高校生3名です。到着後、最初に Hearn の生涯についての解説と長男一雄氏による父 Hearn の焼津での思い出を綴ったビデオを見ました。続いてお二人の学芸員による展示物についての説明と史料についての丁寧な解説を聞きながら館内を見学しました。

小泉八雲こと Lafcadio Hearn は、神戸を離れた後、帝国大学文科大学(現東京大学)での職を得て帝都東京へと家族と共に移り住みます。1897(明治30)年8月4日、Hearn は、友人の田村豊久の知人がいる焼津に家族とともにやってきます。Hearn は、焼津の深くて荒い海を気に入り、以後亡くなるまで6回、夏になると東京から東海道線に乗り、子供たちと一緒に焼津にやってきては夏休みを過ごしました。Hearn は、浜頭目海岸や和田浜海岸で長男一雄に泳ぎ方を教え、一緒に海水浴を楽しみました。この海岸は岩石海岸でしかも遠浅ではなく、海に入るとすぐに2m近くの深さになるため一般的に泳ぐには不向きな浜ですが、Hearn は打ち寄せる波が石を洗う音に魅了されたのかこの海岸をいたく気に入っていました。おそらくそれは彼の生まれ故郷であるギリシアのレフカダ島の海岸線に似ていたからでしょう。そんな大好きな焼津に別荘を建てようと Hearn は、亡くなる前年に別荘地を探していました。

人に裏切られ、傷つき「弱い者いじめとうそつきが何より嫌い」で、頑固で一途な Hearn は、身分の別なく誰とでもくっつくなく話し、表裏がなく素朴で正直な魚屋の山口乙吉と出合います。Hearn は、彼を『神様のような人』と慕い、『乙吉サーマ』と呼びました。一方、乙吉も Hearn を『先生サーマ』と呼び、お互いに尊敬していました。こうして Hearn は、焼津に来ると、乙吉の営む魚屋の2階を間借りし、子供たちと夏休み楽しんだそうです。Hearn は、水泳が得意で焼津に来ると、殆どペンを殆ど握ることなく日に3度海に出ては泳ぎ、仕事に追われる忙しい毎日を忘れて浜通りの人々と気軽に交流しました。Hearn は、麦藁帽子を被り、浴衣を着て草履を履き近所をよく散歩したそうで、焼津神社、光心寺、教念寺、海蔵寺、熊野神社などを訪れています。なかでも海蔵寺は、焼津で取材した実話をもとに書かれた作品「源流」に登場するお寺で、荒れ狂う波で船が沈没した一人生き残った天野甚助が漂流中に掴まって命拾いした板子が奉納された場所でもあり、歴史の重みを感じる寺です。また Hearn が乙吉と一緒に訪れた教念寺では、池に泳ぐ美しい鯉や大きな松の木を見て「大変美しい景色」と何度も褒めたそうです。一方、Hearn は、熊野神社で不思議な体験を目の当たりにしています。Hearn が息子一雄と乙吉と Hearn の書生と一緒に訪れた神社の裏手で乙吉と書生のみが「地面が火のように熱くなる体験」をしましたが、Hearn と一雄は何ともなかったことが記録として残されています。私たちも熊野神社の裏手に行ってみましたが、その場所は石で丸く囲まれていました。生徒たちは上から手をかざしたりしていましたが、何か感じた生徒もいたのかもしれません。この他に教念寺を訪問しましたが、Hearn の見た池や大きな松の木はすでにありませんでした。

Hearn は、また東京で留守を守る妻セツに宛てて愛情あふれる手紙をこまめに書いています。現存するものは9通あるそうですが、その内の8通を焼津小泉八雲記念館で所蔵・展示しています。セツは、最初の年こそ一緒に来たもののその後は、東京にいて留守を守り、Hearn と子供たちを迎えにくる時だけ焼津に来たそうです。長男一雄もセツに手紙を書き送っていますが、真っ黒に日焼けした自分の姿を描いたりしています。きっと物書きの父親に影響されたのでしょうか。



焼津小泉八雲記念館です。
2007年に開館しました。



解説ビデオを見るため入口を
入り多目的室に向かいます。



八雲の生涯と息子による焼津
の思い出の2本を観ました。



八雲の生涯について学芸員
から聞きます。



山口乙吉との出会いとセツに
宛てた手紙についての説明を
聞いています。



八雲が見た焼津神社の荒祭で
使われた神輿を見ました。八
雲は喜んで寄付したそうです。



八雲は右目も近視でしたが、
眼鏡を嫌い、遠くを見る時
は望遠鏡を愛用しました。



山口乙吉の魚屋があった屋敷
跡を訪ねました。建物は明治
記念館に保存されています。